

# 3.11 を忘れない

# ～まち・住まい・コミュニティ～

みやぎ生協グループから宮城・福島のいまをお伝えします

ついの住処、仮の住まい。どの被災者にも地域で安心して生活できる環境を。

## 福島県南相馬市社会福祉協議会

「様子を伺いに訪問したら、「10日ぶりに人と喋った」という方がいました」。

黒木洋子さん(南相馬市社会福祉協議会生活支援相談室長)は、孤立しがちな被災者の現状について、そう語ります。

「南相馬市内の復興公営住宅はどこもまだ自治会がありません。住民同士の自発的なコミュニティ形成もなかなか進まなくて…」。

県営の復興公営住宅には、原発事故で南相馬市に避難してきた浪江町や双葉町など他町村の人たちが多く入居しています。

故郷のほとんどが居住制限区域や帰還困難区域になっていることから、南相馬市をついの住処と決めて家を建てた人がいる一方で、「ここは仮の住まい。いつかは故郷に戻る」と思っている人もいます。

避難して8年が経ちますが、暮らしはまだ流動的で、新たなコミュニティをつくる雰囲気も環境も整っていないのが現実です。

「自治会がないと困るのは被災者です。避難先で話し相手がなく孤立する。どこに誰が住んでいるか把握できず、ニーズが埋もれて

しまう。私たちの被災者支援活動も復興が進むにつれて形を変えていきます。「住民だけでは何もできない」とならないよう、自治会立ち上げを支援し、様々なイベントを通して、コミュニティを育てていきたい」。

被災者が地域で安心して生活できるように支援するのが、黒木さんたち生活相談支援室の仕事です。

「世帯分離や地域分断から来る寂しさ、外出機会の減少、高齢者の身体機能の低下。支えなければならぬことがたくさんあります」。

なかでも黒木さんたちが今、気になっているのが、生活困窮に陥りそうな人たちの存在です。

「50代、60代のちょうど働き盛りの方々。勤務先が原発事故で移転・撤退し、失業。新たな職を得ても頭と体が追い付かず、心が折れてまた働き口を失う。賠償金も底を突く。免除されていた家賃や税金も払うようになる。そうなったらどうやって生活していくのか。注意して見守っていかねばと思っています」。

「原発事故が課題を深く複雑なものにしている」と黒木さん。そうした背景を踏まえながら「地域ごとの課題をどう解決していくかが、私たちの次の課題」と、前向きな笑顔を見せます。



▲南相馬市社会福祉協議会生活相談室の皆さん。向かって右一番手前が室長の黒木洋子さん。「職員はつねに被災者に気持ちを寄せている。それだけに、被災者を支援する職員の心のケアも大事だと思っています」。



▲県の復興公営住宅は市内に5カ所。棟ごとに管理人と呼ばれる住民の代表がいて、サロンや趣味の活動などに熱心に取り組んでいるところもあります。また南相馬市には市が整備した災害公営住宅もあります。

## 7月8日(月) 福井県立大学で 出前講義

『食の安全とくらしの安心で、地域へのお役立ち』テーマに



▲福井大学生協 磯崎専務理事による講義

福井県立大学経済学部 北川太一教授の講義のゲストスピーカーとして招かれて実施している福井県立大学の学生(3年生)を対象にした出前講義(90分)も、国際協同組合年(2012年)から数えて8年目となりました。

「協同組合って?」「生協って?」の説明の後、生協が組合員のくらしだけでなく地域や社会、地球環境をよりよくするために地域や職場、学校などで事業・活動していることを、パワーポイントを活用して理解を深めていただきました。また、エシカル消費やSDGsも紹介しながら、生協の存在価値についてお話ししました。

メインは、福井大学生協 磯崎専務理事による講義です。「大学生・教職員のくらしと学びを支える大学生協」と題し、大学生協の使命や行っている事業・活動、学生が主体的に活動を企画・参加したり体験できる企画などを紹介し、「福井県立大学でも、ぜひ大学生協設立にチャレンジしてみてください。福井大学生協が全面的にサポートします」とエールを送りました。最後に北川教授が「自分の暮らしや学生生活を良くするためには、自ら声を出すことが大事です。」と締めくくられました。

## 1997年の「ナホトカ号重油流出事故」をきっかけに毎年実施。

## 第23回 Let's clean the coast! 海岸クリーンアップ 参加者募集

★ 9月7日(土) 9:00~10:00 鷹巣海水浴場

★ 9月14日(土) 9:00~10:00 三国サンセットビーチ

持ち物 ゴミ袋は事務局で用意します。その他の帽子・軍手・汗拭きタオル・火ばさみなどは各自ご用意ください。

※悪天候により、事前に中止する場合があります。その際には連絡いたしますので、申し込み時に連絡先(電話番号)をお聞きます。 ※行事保険に(事務局負担で)加入します。

お申し込み・お問い合わせは 福井県生協連合会まで

協賛: 福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会

# ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)

TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2019年8月2日 No.124

http://www.fukui.coop/kenren/

福井県生協連合会

検索



## 第44回福井県生活協同組合連合会通常総会のご報告

6月6日(木)、福井県教育センター4階 大ホールにおいて第44回福井県生活協同組合連合会通常総会を開催しました。当日は、福井県安全環境部副部長 川野 学氏に来賓として出席いただきご祝辞をいただきました。黒崎文夫副会長理事の開会宣言の後、福井県労済生協の山下雅義代議員が議長として選任され、続いて、理事会を代表して竹生正人会長理事が挨拶し、以下の全議案が可決決定されました。



- 可決決定された議案
- 第1号議案 2018年度活動報告・決算報告及び剰余金処分案承認の件
  - 第2号議案 2019年度活動方針及び収支予算決定の件
  - 第3号議案 役員(理事9名、監事2名)選任の件

なお、本総会の終結をもって理事及び監事全員が任期満了となりました。今年度の役員体制は右記のとおりです。今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 2019年度 新役員体制(敬称略) 理事9名 監事2名

会長理事 竹生 正人 (福井県民生協 理事長)	理事 田中 光顕 (福井県医療生協 専務理事)
副会長理事 小林 厚 (福井県労済生協 専務理事)	理事 松宮 幹雄 (福井県民生協 専務理事)
副会長理事 紙屋 敏夫 (福井県庁生協 専務理事)	理事 黒崎 文夫 (福井県学校生協 専務理事)
専務理事 織田 良 (福井県民生協 総務ネットワーク支援部 部長)	理事 磯崎 修治 (福井県大学生協 専務理事)
	理事 清水 政宏 (管浜生協 理事長)
	監事 堀内 紀宏 (福井県大学生協 専務補佐)
	監事 佐野 誠 (福井県医療生協 光臨生協病院事務局長)

この度、専務理事に選任されました織田 良と申します。協同により地域のくらしや社会を持続可能でより良いものにしていくことが「協同組合」の使命です。社会が複雑化し課題が増える中、持続可能な社会を構築していくために、協同組合として協同組合間の連携による事業や活動に期待が寄せられています。前任の樫尾さんの功績を受け継ぎつつ、さらに発展させていくような活動ができるよう、精一杯励むつもりです。皆様には、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。